

ぶらり瓢箪

どの新聞を社説で「世間は正義に強いと書く。ほんまかいな。ロッキード事件でも田中園栄が語ることよりも誇らない方が一ことが重要や。会計検査院の役員が税金のつまみ食いのエンカイをくも役で渡らされる心配はないが、労務者であらば何でも風当たりが強い。いまの世の中は「強きを助け弱きをくへん」や。

この防犯委員会の団体が暴力団退治のために暴行団事務所を押しかけたことがある。八百屋とモモクが、いざれにこそ西成は暴力団退治の声をあげない。

西成の防犯委員会はマンコ追放に目的を定めているわけや。いまから十日前でも二人なことがあった。

ある労務者が洗剤カスの残飯をハトに食わすために公園にまいていた。それを見た防犯委員が、不法投棄だといって警備員取りで西成署に運んだ。後で西成署のボリが「二二だけの差やが、防犯委員は小さいことでも云ってくるので困るといって。どういうわけか三角公園のノミ屋は通行したことがない。

この防犯委員の親父はフリーニング屋の親父でありながら、家から預かった大切な品物を洗濯の干場でよく洗まわっていた。

話は変わるが鶴島橋商店街にタクシーが一台止まっていた。通りがかりの労務者が「こんな所へ車を止めんな」

と行って足で車をけった。乗客の二人は運転手に加勢して二対三のケンカになった。乗客の二人は労務者に根性の押し売りをするまじいカンロウや。ところが運転手はつまみこを考えた。自分の手を返すのがいやに乗りこめ労務者を殴り合ひをさせて見物することである。それに気付いた乗客はいままのケンカはどこへやら急に元気がなくなった。労務者が相手なら乗客百倍でも運転手なら乗客が出なかつたわけや。

天王寺公園の市立図書館で暴力団があげられていたことがあり。このときの図書館の態度はけしからん。職員は労務者が殴られていたのを見て知らん顔であった。「早く一〇番を」といって「だれかに相談してから」とのんきなことをいいた。図書館に出勤めのは相当の人格者のように思うが正直な話一袋なんぼで話にならん。館長のオッサンは出入口のところ立っていた。知らん顔をしていればその内になくなるでそれ待っていたわけや。暴力団は堂々とどこかに行、てこまった。図書館に限らず公園内の暴力事件でも、図書館に助けを求めても相手にされないことを世間のアゲツクにも知ってほしいいなあ。

図書館に限らず各々噂とその周辺の商業人でも労務者が殴られているときは「一〇番を早く見物して、その分り労務者が何かするとすべーの番はあまりにも有名不公平。このかの所が家か用バストル発給事件で近頃の人知らん顔をしていたことがある。その犯人がもつて労務者であらばどうは問屋があるさな。乗客百倍。自転車が当たったことで労務者同士がケンカをこいた

ここから切り取ってそのままポストへ（切手不要！）

郵便はがき
5 5 7 - □ □

大阪市西成区萩之茶屋三一六一三五
「御握り屋」気付

料金受払
取人払

西成局承認
56

差出有効期間
昭和53年10月
31日まで
切手を貼らず
にそのままお
出し下さい

なまえ
いるところ、またはドヤ名
どんな仕事にいらしてますか（土工雑役・工場雑役・土方・トビ・大工・その他の職人・職人手元・その他）——（契約・現金）
白手帳を（持っている・持っていない・持ってたけど今はない）

一九七八年三月一日発行定価百円

大阪市西成区萩之茶屋316135
「御握り屋」気付
労務者渡世編集委員会

「労務者渡世」もこれが二十五号です。今回は「道
と仕事」の特集です。感想やら、注文やら聞かせて
もらうこと、ありがたいたいと思います。
「とびら」に使った「線路工士の唄」は、長崎県諫
早（いさはや）地方に伝わったものです。もとは鉄道
工事の土方が仕事しながら唄った「土方節」なのだ

ぶらり瓢箪

この新聞を社説で「世間は正義に強いと書く。ほんまかいな。ロッキード事件を中商栄が語った」云々も

ついでに、中商栄の語った「ロッキード事件」を社説で「世間は正義に強いと書く。ほんまかいな。ロッキード事件を中商栄が語った」云々も

と書いて足で車をかけた。乗客の二人は運転手に加勢して一対三のケンカになった。乗客の二人は労働者に根性の押し売りでものまじいカンロクや。ところが運転手はうまいことを考えた。自分の手を洗すのがいやに兼客と労働者を殴り合いをさせて見物することである。それに気付いた乗客はいままのカンロクはど

けで、その分、ついでに、中商栄の語った「ロッキード事件」を社説で「世間は正義に強いと書く。ほんまかいな。ロッキード事件を中商栄が語った」云々も

「こゝがあれ。そのいんげん白電車は労働者にはよく当たるが、暴力団が乗客に当たることはまだ見たことがない。何回も見た。労働者には女学生でも新聞少年でもだれでも大きな聲がこぼす。また勇気百倍。新聞少年と労働者のケンカを見たことがある。主婦が「お前と勝負する者に出る」と労働者に対することである。それに限らず労働者同士のケンカも多くあった。労働者風でもハツタリ屋が多い。さんな気をつけまじやう。

ストリンアに行った説をするときもよく焼く労働者がいてまたケンカ。世の中変れはなる。

いつであったか、三木首相がだれかに殴られてびっくりかえっている姿が新聞に出ていたことがある。ゆつはその写真を切り取り額に入れて部屋にかざつてある。この世の中たまにはよいこともある。

(花の友)

編集後記

寒いとおいと言っていたら、もう三月。不景気ながら春が来たようです。

「労働者渡世」もこれが二十五号です。今回は「道徳と仕事」の特集です。感想やら、注文やら聞かせてもらうこと、ありがたいたと思います。

「こびら」に使った「線路工場の唄」は、長崎県諫早へいざはや一地方に伝わったものです。もとは鉄道工事の土方が仕事しながら唄った「土音節」なのだぞ

〈労働者渡世〉販売店

- かとう ションベンガード 東
- Ⓚ 銀座通 安い屋 並み
- 千石書店 パチンコ ニュー大阪 東
- いこい食堂 けいさつうら
- 御握り屋 三角公園 西
- 大阪労働 甲の島 朝日ビル 中
- プレイガール シーナル
- 長瀬書店 山谷 清川 70 屋 並み

うです。

「こゝがあれ。そのいんげん白電車は労働者にはよく当たるが、暴力団が乗客に当たることはまだ見たことがない。何回も見た。労働者には女学生でも新聞少年でもだれでも大きな聲がこぼす。また勇気百倍。新聞少年と労働者のケンカを見たことがある。主婦が「お前と勝負する者に出る」と労働者に対することである。それに限らず労働者同士のケンカも多くあった。労働者風でもハツタリ屋が多い。さんな気をつけまじやう。

労働者渡世 オ二五号

一九七八年三月一日発行定価百円

大阪市西成区秋之茶屋3-16-15

「御握り屋」気付
労働者渡世編集委員会